

平成30年度 保護者懇談会 報告	
日 時	【1回目】平成30年7月21日(土) 午前10時から12時まで 【2回目】平成30年8月1日(水) 午後6時から7時40分まで
場 所	駒王中学校
出席人数	(1) 保護者等 【1回目】21人 【2回目】9人 計30人 (2) 事務局 【1回目】教育部長【2回目】教育長 学務課長、学務課課長、適正配置推進室職員
内 容	(1) あいさつ (2) 学校適正配置基本方針の概要について (3) 児童生徒数の将来推計について ()は学級数 (10年後) 宮田小267人(12) 中小路小92人(6) 仲町小89人(6) 駒王中204人(6) (20年後) 宮田小201人(6) 中小路小70人(6) 仲町小67人(6) 駒王中154人(6) (4) 意見交換
【1回目 (4) 意見交換】	
<p>(質問)</p> <p>人口減少が再編の前提と捉えていいか。 人口減少を理由に再編の話をするなら、人口減少を止める話はしないのか。日立市の人口減少は何年も前から言われている。その対策がされていないのに小学校の再編なのか。教育委員会しか出席していないが、企画部門や市長が説明するのが大前提ではないか。</p> <p>(教育部長)</p> <p>人口減少は東京圏を除いた全国的な課題で、日立市は特に減少が大きいことが問題である。行政の各部門で対策は行っているが、結果がすぐに出るものではなく、取り組んでいる事柄についての広報不足は否めない。日立市の施策は、近隣市町村に見劣りするものではないが、皆さんの受ける印象がよくない。 人口が減ることについて対策は取りながらも、(子どもたちへの影響を考えれば)例えば再編など、どこかで手を打たなければならない。人口減少を止めるための提案もいただきたい。</p> <p>(意見・質問)</p> <p>推計を聞いて、1学級の人数が15人くらいになってしまうとかわいそうに感じる。 (現状の学級の人数が)県よりも少ない人数でやっていることもアピールになると思う。 統合ということになって、途中で転校することは不安がある。最初から統合先の学校に通っていたほうがいいのかなども考える。 廃止された学校の活用方法を示してほしい。 中小路小は校舎が古くてかわいそう。保護者でお金を出しても、きれいにしてあげたいという意見もあるくらい。建て替えられている学校との格差を感じる。 再編の順番はどのように決めるのか。</p>	

パンフレットの中には具体的な数字がない。日立市独自に教員を確保することも考えてほしい。

(事務局)

学級の人数については、これまでの地域懇談会でも同様のご意見をいただいている。茨城県では、できるだけ35人以内でできるような対策を講じている。

市が独自に先生を採用するには、人件費がかかること、先生のなり手がいないなどの課題がある。

途中で転校については、入学した学校で卒業までということになると、だんだん学年が減って、最終的には6年生だけになってしまい、学校運営上も問題が大きい。途中の転校でも不安にならないように、事前の交流に時間をかけて、一気に統合という形にしていきたい。

跡地活用については、保護者や地域、その他の関係者からの意見を伺って、活用方法を検討していきたい。他市町村の例も参考にしたい。この地域は、都市計画上も可能性の大きい地域だと思う。

統合の順番については、いろいろな要素があるので、一概に言えないが、校舎の安全性に問題があるところは優先的に決めていかなければならないと思っている。また、現時点で目指す学校規模から離れている学校も、より一層かけ離れてしまうので、優先的に検討しなければならない。

学級の人数について説明したい。国の基準では、小学1年生が35人、それ以上は40人。茨城県では、小学2年生まで35人。小学3年生以上は36人以上の学級が学年で3学級以上あれば、1学級増やすことができる。定数のほかに加配があり、TT(ティーム・ティーチング)で、複数で指導することもできる。

中学校では、学級数での教員定数の変動が大きい。6学級と7学級では3人違う。

(教育部長)

学級の人数には幅がある。35人学級では、36人になると18人の2学級になる。18～35人の幅がある。小学3年生以上では、41人で2学級になるので、20～40人の幅がある。

(意見・質問)

1学級20人の6学級だが、少なく困ることはなく、学校全体としてのまとまりを感じる。

統合されると通学が遠くなるが、必ず徒歩で通学しなければならないのか。車での送迎は可能なのか。

教室にエアコンを設置してほしいが、予算面を考えると統合したほうがいいのかとも思う。(統合により余剰となる予算で設置してもらえる。)

9月の運動会が終わるまで水筒を持っていくが、水かお茶となっている。熱中症の心配もあるので、薄めたスポーツドリンクも許可してほしい。教育委員会に問い合わせると、学校ごとの対応といわれる。教育委員会で学校に伝えてもらえないか。統合よりも熱中症対策を先に行ってほしい。

(教育部長)

季節のめぐりが早くなっているようで、熱中症対策については気になっている。エアコンも付けたいが予算の工面が難しい。かといって、命には代えられないので、方法を検討中である。来年の夏には間に合わせたい。

(事務局)

水筒の中身について。今年の暑さは異常だと思う。小学1年生が亡くなってしまうという、あってはならないことが起きた。命が大切なので、教育委員会の中でも検討したい。

再編について、皆さんに考えていただきたいのは、現在は20人いるが、推計では半分になってしまう。10人の学級はどうだろうかということ。将来を見越して話し合いたいと思っている。

再編後の通学については、必要があればスクールバスについても検討して、安全確保をしていきたい。交通渋滞やバスの確保、子どもたちの体力低下などのデメリットもあるので慎重に検討していきたい。

(質問)

今回の再編計画に載らなければ、10年間は安心と考えてよいか。再編のスケジュールは決まっているか。統合までに何年かかるのか。

(事務局)

全体像を示したうえで、10年間に何をするかを示していく。
統合する場合、一般的には3～5年かかるとされている。

(質問)

計画は市民に公表されるのか。

(事務局)

計画の素案を示して、市民の意見を聞く機会を設ける。行政が、一方的に決めることはしない。

(質問)

話を聞いていると、中小路小は将来、無くなってしまうように聞こえる。

少ない学校同士を合併し、小規模のメリットを生かして、小規模のまま残す選択はないのか。

学童保育について。中小路小の近くには、民間の学童があって、6年生まで見てもらえる。学校の児童クラブは、統合すると受け入れ枠が狭くなってしまうのではないか。

(教育部長)

小規模の良さはあって、子どもをよく見てほしいと保護者の方は考える。しかし、人数が少ない中で社会ができ、位置関係が決まってしまう、その関係がずっと続いてしまう。仮にいじめが起きたらクラス替えもできない。いじめている子どもに「いじめはいけない」と言うだけでは済まない(子どもは救われない)。

統合は、数の少ない方が多い方に吸収されるような形ばかりではない。校舎や敷地の問題などもある。子どもたちのための環境に着目して進めていく。子どもに目が行き届き、かつ、クラス替えができるぎりぎりの規模が2学級と考えている。

中学校は、そこに教員配置を考えて3学級とした。小規模のまま残すことは、課題が大きいと考えている。保護者との話し合いが必要だろう。

(質問)

学校の児童クラブでは、学年で切られてしまうし、定員もある。使えない人が出てきてしまうのではないか。

(教育部長)

学童保育の定員は、教室の大きさで決めている。教室を増やすなど、必要数は確保しなければいけないと思っている。学童保育の定員を増やすには、指導員の確保も課題である。

(質問)

民間の学童クラブが中小路小学校の近くにあって利用しやすいのに、統合で学校が遠くなることで、利用しにくくなるのはもったいない。

(教育部長)

もったいないという気持ちは十分理解できる。最終的には、話し合いだと思う。

(意見)

同じ地区に住んでいる人から「中小路小は無くなる」と、たびたび言われ、また、宮田小の知人からは「待ってるね」と言われてショックを受けた。小3の子は、中小路小で卒業できないかもしれないという不安が大きい。うわさが広まっているので、不安を取り除いてほしい。

事情があることとは思うが、近所では学区外の学校に行く人が多い。何人かに聞いたところ、同じ条件で同じ学校を申請しているのに、すぐに許可が出る人もいれば、何度も窓口に行かなければならない人もいる。許可の扱いが違うように思う。

(教育部長)

学校の統合について明言したことはない。

ある中学校について、「人数が少なくなってしまった。何とかしないといけないね。」と話したことが、学校が無くなる話になって地域に広まってしまう。

中小路小が無くなるとか、宮田小と統合されるとか聞いたときは、教育委員会では、そのようなことは言っていないと伝えてほしい。決めるために、今、話を聞いている。

(事務局)

指定学校変更について説明したい。申請の理由はさまざまで、基準は内規として決めている。放課後や通学の安全を第一に許可をしている。教育委員会としては、できるだけ保護者の気持ちに寄り添いたい、また、安全に学校に通ってほしいという思いから、複数回、窓口に来ていただくことはある。申請を拒否するために何度も来てもらう訳ではない。

(意見)

学区境だから学校を選べるからといって同じマンションで、違う学校に通っている場合がある。そこを許可しなければ、中小路小の人数が増えるのではないかと思っている。

(事務局)

行きたいほうに行ってもよいという地域はない。昔からの地域の事情などで申請すれば許可をする地域はある。子どもたちが増えて学校が分かれたところや以前からの事情で通う学校を決めている地域などもある。同じマンションの中で違う学校に行っているのは、各々の家庭の事情である。

(意見)

あるマンションの中に小学生の世帯が4世帯あり、うち1世帯は中小路小、3世帯は特に事情もなく助川小に行っている。

(事務局)

相応の事情がなく学校を変えることはない。

(意見)

学校の学童保育は6：30までなので、間に合わないこともある。度々、指導員から注意を受けて、やめてしまった人もいる。保育時間を延長できないか。6：30以降を民間の学童クラブが引き継ぐなど、協力することはできないか。統合で学校が遠くなったら、もっと間に合わない。近くの交流センターを利用するなどの方法も考えてもらえないか。

部活動や学校行事の規模が小さくなっている。ほかの学校と合同でできないか。少年団のように学区を越えて活動できるようにするなどできないか。

(教育部長)

児童クラブの保育時間は順次延長してきたが、福祉サイドでも課題としている。保育園でも7時まで預かっているのに、小学校になったら保育時間が短くなるのは問題がある。現在、検討している。

(事務局)

(学校行事は)人数が多いと迫力があるが、少ないなりに行事のやり方はあると思う。大人から見ると寂しく感じて、子どもたちにとっては、自分の運動会として精いっぱいやっていて達成感もある。合同で行事を行うこともあるが、学校間で調整できないことも多い。それぞれの学校で特徴のある活動を行っている。

中学校の部活動は、現在でも、合同チームで試合に出たりしている。

(意見)

小学校と地域の関係を考えてほしい。

震災の時に中小路小の体育館が避難所になった。運営の中心はコミュニティだった。

敬老会も小学校を会場にしているので、近くて参加しやすいと言われる。

避難訓練を小学校と協力しながら取り組んでいるし、登下校の見回りも行っている。

再生資源の回収もコミュニティが行っている。

統廃合を検討する前に、地域の関わりを明確にしてほしい。教育委員会だけの問題とせず、行政全体で考えてほしい。

他の学区でも説明会をするのか。学校の再編＝コミュニティの衰退と考えている。次の意見交換会の際は、教育委員会だけでなく、市民活動課にも出席してほしい。

(教育部長)

昨年度、コミュニティの皆さんにご意見をいただいたが、保護者の皆さんからのご意見が聞けなかったので、今年は保護者の皆さんにご意見を伺っている。保護者の意見を聞かずに決めることはできない。

震災の時には、コミュニティの皆さんにはお世話になった。

地域の中の学校ということで、学校運営協議会という仕組みを立ち上げ、地域の皆さんに学校運営に貢献していただいている。

学校は子どもの施設。子どもにとって一番良い形にしていかなければならない。リーフレットにもあるように、地域との関係も考えていく。

学校の統合は、学校だけでは考えられない。市長をはじめ、行政全般に関わることと認識している。

以上

【2回目 (4) 意見交換】

(質問)

再編の具体的な案はないのか。今ある学校をまとめて、大きな学校を一つ作って人を集めたほうがいいのではないか。

(教育長)

具体的なことは、決まっていない。

再編で学校をまとめるにしても、そのままの形で当てはめることは難しい。本庁地域や多賀地域は、学校が多く込み入っている。小学生の通学距離なども考えていかななくてはならない。

(意見)

自身は大きい学校の出身（県外）。運動会などのイベントは人数が多く楽しかった。実家に帰ると、近所で遊んでいる子どもも少なく減っているのだなど実感する。大きな学校を作って人を集めることもいいのではないかと思う。ただし、アクセスの方法は考えなければならないと思う。

(意見)

仮に、統合されると、通学距離が1.5 kmから2.5 kmくらいになってしまう。低学年の足で40分くらい歩くことになる。

統合の前に学区の再編（学区の線引きの変更）を考えてもいいのではないか。統合となると関係のない人は、集まりにも来ないし意見も言わない。

(事務局)

この辺りは、昔から市の中心部なので人がたくさんいた。そのため、比較的狭い範囲で学校があるので学校間の距離も近い。線引きの変更なども検討できるかもしれない。

(意見)

近所に同年齢の子どもがいない。近い学校に1人で通うなら、少し遠くても集団で登校できる学校に行かせることも考える。

(事務局)

低学年のお子さんは、高学年のお子さんと一緒に登下校できるのが理想だと思うが、集団下校しても最後は必ず1人になる。大人や教育委員会がずっと付いているわけにもいかない。地域の目で犯罪を抑止していくことが重要になってくると思う。

日光市の事件（2005年 児童が下校途中に殺害された）があつてから、できるだけ集団で下校させるようにしている。下校時間に合わせて散歩や買い物に出してもらうなど、地域に呼びかけて協力していただいている。大人がアイデアを出し合っって子どもたちを守っていかなければならない。

(意見)

人口減少のグラフを見て、市内の学校の再編は避けられないことだと考えるが、現在の学校規模やクラス数を基準にして計画を作っていくことがベストなのか、揺れながら考えている。

学校は地域の上に浮かぶ船と言われている。学校という船を失った地域はどうなってい

くのか、また、地域という海を失った船の乗員である子どもたちは本当に幸せなのか。地域を失った子どもたちは日立市に愛着を持ち、今後、住んでいけるのかということに疑問に思っている。学校を無くすことで地域を失い、その結果、より人口流出が進んでしまうのではないかと危惧している。

今後、日立市を背負って、日立市に生きていく子どもたち一人ひとりが学校というレガシーを胸に次にバトンを渡せるような環境を作っていくことが、私たち保護者の責務だと思っている。そのためにも、小学校については、現在の学区の調整を行って1クラスを2クラスにするような議論が初めに必要なのではないかと。中小路小で言えば、各学年5～10名程度増えれば、31人を超えて2クラスという選択肢も出てくる。中小路小の現状を見ると学区外に行ってしまう子どももいると思うので、その見直しができるならば、なお進めやすいのではないかと。このような、学校を生かすやり方が必要だと思っている。ただ、中学校については、心身ともに大きく変わるときであって、環境の変化、人間関係の創出、適正な部活動の実施などを鑑みると、小学校より先に考える必要があると思う。中小路学区では、見守り活動やPTA活動も再編の話が出てから変わりつつある。子どもが本当に輝ける街になるようにしたい。

(事務局)

学区の再編についてお話をさせてほしい。

現在の学区が作られたのは、何十年も前のことで、そのとき、どこにお子さんが住んでいるのかといった状況を踏まえて決められた。ずっと以前と比べれば、お子さんの住んでいるバランスも変わっている。そう考えると、線を柔軟に引き直すことは望ましいやり方なのかもしれない。再編のやり方としては合理的なやり方だと思う。コミュニティが学区と同じなので、変えることで問題が出てくるかもしれない。

しかしながら、もう少し先のこと、10年後、20年後のことなので、今の中学生のお子さん、皆さんのお孫さんの世代の頃を見越して準備をするという視点で考えてみると、子どもたちがかなり少なくなってくるので、現在多い所と調整をしても、ゆくゆくは両方が少なくなってしまうということもお伝えしなければならない。

(意見)

子どもが中学生になって初めて知ったが、サッカーなどのうまい子はプロチームのユースに入っていて部活動ができないために、それほどでもない子がレギュラーになっているような不思議な環境があって驚いた。人数が減っているから、そのような状態が起きるので、部活動はしっかりさせてやりたいと思い、(再編は)中学校が先だろうと思った。

20年、30年後を考えれば、小学校の再編も必要だと思う。ただし、小学校は学区の見直しを行って、10年後にもう一度見直すというように、一気にではなく柔軟に行ってほしい。住んでいる人の顔も見えないところに子どもを通わせて、子どもたちの声が聞こえない町になってしまう。

(教育長)

現実問題として一気ににはできない。段階的に取り組んでいくことになるだろう。

現在、学校運営協議会に取り組んでいるが、この両立が大切。地域からは意外と学校が見えていなかったりして、地域活動に学校側が関わることも少ない。再編と両立させていきたい。

(意見)

夫婦とも県外出身。日立の学校ことはよく分からないが、市報などを見るといろいろな

取組がされているので、ぜひ通わせたいと思っている。自身の出身校はマンモス校で毎年クラス替えがあり、毎年新しい友達ができ、夫は小さい学校出身で、中学校に進学すると少数派になり自分が出せなかったのが、早いうちからたくさん友達が作れる方がいいと言っていた。

(質問)

こども園や保育園は需要が多いが、幼稚園はどうしていくのか。

(教育長)

子どもの幼児教育の在り方検討を行ってきた。

日立市では私立幼稚園が先にでき、人口増に伴って私立幼稚園がない所に市立幼稚園ができていった。専業主婦家庭が多かったのが幼稚園の需要があった。

時代が変わって、保育園の需要が増え、市立で保育園が作られ、待機児童などもある。幼稚園は公私立の共存関係を考慮して、公立は縮小し特別支援の役割分担をしていく方針。来年度からは授業料が公私で統一される。

(事務局)

現在の茨城県教育長は、就学前教育の充実を掲げている。

幼稚園や保育園で集団生活を経験してきた子どもと比べて、家庭の事情などで経験できなかった子どもたちや特別な支援が必要な子どもたちの小学校入学後の困り感が大きいことを目の当たりにしてきた。本人は、そのようなつもりはなくても、友達の関心を引こうとしてトラブルになってしまったりする。

小学校では、そのような子どもたちの困り感がないように幼稚園・保育園との交流事業を行って情報交換をしている。

(質問)

検討作業の今後の見通しやスケジュールは具体的に決まっているのか？

人が少なくなる前提で再編を検討するのではなく、日立市に人を増やす努力をしてほしい。

(教育長)

人口増への対策は、市全体で総合戦略として取り組んでいる。産業誘致や企業支援、観光、子育て支援などの取り組みについて、もっとアピールしていかなければならない。日本全国の地方都市は、どこでも同じで努力している。

一方でそのような努力をしながら、子どもたちの環境を整える努力もしている。

(事務局)

再編の具体的な取組については検討中である。いろいろな課題を踏まえて検討していかなければならないし、皆様のご意見も伺いたないので、すぐにはできない。来年には計画を作りたい。全体像を示し、10年間に取り組む中身を計画に表したいと考えている。

再編のスケジュールとしては、他市町村の例から、一般的には3～5年程度かかる。建物の準備（増改築や建て替え）に2～3年かかる。学校名や校歌、PTA活動などの調整や子どもたちの事前交流などの期間が1～2年くらい必要になる。

(意見)

人口を増やす努力や子育て支援をしていただいていることは分かっているが、学校が無

くなると住もうと思う地域ではなくなる。統廃合が進んで、学校が遠い地域は人が住まない地域になってしまうのではないかと思うし、通う距離が遠いのも困る。

(意見)

まだ、子どもが小さく、意見があって来たわけではない。データを見て、自分のころと比べてずいぶん減っていることを知り、寂しさを感じた。

(意見) (中小路)

単学級の先生の負担が分かった。何が心配かと考えると、再編がいつスタートするのが不安。途中からの転校になると人間関係が心配される。例えば、宮田小と中小路小が統合となった場合、宮田小の人数が多いので心配がある。

中学校は人数が必要だと思うし、いろいろな小学校から進学するので心配は少ない。

学校の人数は多い方がいいと思うが、きめ細かく見てもらえるように学級の人数は抑えてほしい。

(質問)

小学校を統合する、新しい学校を立て直すというような具体的なものはあるのか。学区の見直しを考えるような、このような意見を聞いて考える機会は今後もあるのか。

(事務局)

今のところ、再編についての具体的な計画はない。

皆さんからお伺いしたご意見は、検討委員会にお示しして、再編計画の検討に生かしていく。検討委員会の中で再編の案を作っていくが、その案ができた段階で、皆さんにお示しし、今回のような機会を設けてご意見を伺ってから計画を決めていきたい。行政が一方的に決めるようなことはしない。

(質問)

指定学校を変更している数は把握しているのか。

(事務局)

数は把握している。

(質問)

それは公表できるのか。指定学校変更の許可をもっと厳格にしたら、中小路小の児童が減らずに済むのではないか。

先日の懇談会で、祖父母のところに帰るから許可をするというような説明があったが、祖父母がいない人は学童に行っている。祖父母宅に行くのは家庭の事情だ。そこに教育委員会が介入する必要はないのではないか。(変更している人数を) オープンにできない理由は何か。

(事務局)

数を表に出すことで変化があるかどうかは分からない。オープンにできない理由はないが、積極的にオープンにする必要もないと考えている。

指定学校の変更は各家庭の事情によって許可しているし、あいまいなまま許可をすることはない。

(意見)

幼稚園や保育園に小学校の情報を発信してあげれば、安心して学校に通えるのではないかと思う。コミュニティも同様で、同じマンションのあちらとこちらとで活動している、していないなどがある。

(意見)

(指定学校の) よくないうわさを聞いて、行かせたくないのいろいろな理由をつけて申請していると聞いたことがある。家庭の事情は6年の間には変わると思うが、いったん認められればそのまま通い続けられる、上の子が行けば下の子も行けるなど、見直してほしいこともある。簡単に変更できると思われる。みんなが納得できるようにしてほしい。

(事務局)

あいまいな理由で許可をすることはできない。申請理由の真偽を追求することはできない。

中学校などは、部活動を理由に申請があった場合は柔軟に扱うようにとの文科省の指導もある。

放課後の安全を第一に許可をしている。児童クラブを利用するかどうかは家庭の事情である。

誤解を招かないように取り扱いしていきたい。

以上

※ 始めと終わりのあいさつと資料の説明は、記録を省略します。